

巻 頭 言

昨夏は、日本の広範囲で記録的な猛暑となり、今冬は、新潟で大雪の再来と、市民の日常生活への影響とともに、新津丘陵に生息する動植物の生態が気になるところです。

植物分布の調査・研究は、旧新津市時代の2001年度から石沢進氏にお願いし、その成果は、通算10冊目となる本年報にまとめられ、調査報告会を通じて市民に還元されています。

昨年は、COP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が名古屋で開催され、地球環境の将来についての議論が行われました。

一方、新津丘陵の多様な自然環境の中では、多くの生物が生まれ、これまでの調査で絶滅危惧種を含む900種もの植物の自生が確認されています。

今後も、これらの調査データが、里山の保全活動の広がりにつながり、市民共有の財産として新津丘陵がこれまで以上に有効に活用され、里山を中心とした交流が拡大することを期待しています。

結びに、石沢進氏の万古不易のご努力に深く感謝申し上げますとともに、資料の調査や提供など、年報発行にあたりご協力をいただいた関係者の皆さまに御礼申し上げ、調査活動が今後も充実することを祈念いたします。

2011年3月

新潟市秋葉区長

藤 田 清 明